

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1291200655		
法人名	ミモザ株式会社		
事業所名	ミモザ新松戸		
所在地	千葉県松戸市新松戸4丁目119-2		
自己評価作成日	令和2年11月30日	評価結果市町村受理日	令和3年3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	令和3年2月4日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

季節感を感じていただけるようフロア内や入居者様と共に一緒に手作りをしています  
また外の花や庭での植え付けなども行ってあります  
料理も一緒に作ったり、皆様で楽しめるようおこのみやきや、たこ焼き、手巻きなど楽しめる食事なども行ってあります。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

1)新松戸駅徒歩5分、コンビニ・スーパー・公園が近くにある恵まれた立地に住環境と安全性に配慮した設計の昨年3月新規開設のホームである。2)コロナ禍の中、感染防止対策を徹底するとともに職員が日常のレクや体操などを工夫し入居者のADLとQOLの維持向上を図るケアを実践している。3)入居者一人ひとりの細かな変化に気付く事を大切にシケアプランに基づいた一人ひとりに合わせた個別ケアをチームとして実践することに取り組んでいる。4)ホーム内30分研修で職員のスキル向上を図ると共に、法人の研修所での介護実践スキルアップ研修や資格取得研修受講を奨励し、手当も支給するなど職員育成の仕組みが整っている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時のオリエンテーションや定期的に行っているミーティング等で、職員ひとりひとりが理念を共有し、サービスの提供を行っています。	新規開設に当たり、管理者と職員が話し合い、「小さな気づきを大切にチームで取り組もう」との理念を創った。入居者一人ひとりのその時その時の表情や言動を大切に、一人ひとりに合わせたケアを実践するよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	生け花レクや花屋さんや移動式のパン屋さんなど外部の人達に来ていただき、地域の一員として活動しています。	生け花の先生にボランティアで来ていただき、生け花教室を開いたり花屋さん屋や移動式のパン屋さん来訪時に近隣の方にも声掛けをしている。町内会に加入し回覧版にイベントの案内を入れさせていただいているが、折悪しく開設と同時にコロナ禍で夏祭りや収穫祭に近隣の方をお呼びすることが出来なかった。	コロナ禍終息後には、地域の色々な行事に参加するとともに、ホームの行事にお招きし地域との交流を図っていくことを計画しており、実現することを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ミモザ新松戸のイベントをお知らせすると共に、認知症対応型の施設であることをアピールしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本来は2か月に一度、運営推進会議を行い、現在の施設の状況やご利用者の様子を伝え、出席者から意見・助言をもらいたいのですが、コロナのため開かれていません	2ヶ月に一度、入居者状況、職員状況、事故・ヒヤリハット報告、行事報告と予定などを議題として書面による運営推進会議を開催し、議事録を市役所、地域包括支援センター、町会長と家族に送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ミモザ通信を作成し、地域包括、生活支援課、他事業所に情報提供し、協力関係を築くよう取り組んでいます。	市の担当課や地域包括支援センターには運営推進会議議事録やミモザ通信を通して、ホームの取り組み状況や現状をお伝えしている。フェイスシールドの配布やコロナ対策など密に連絡を取り合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体で身体拘束や虐待に関する研修を重ね、身体拘束廃止に向けて取り組んでいます。	身体拘束に関する研修を3ヶ月に一度職場30分研修に組み入れて実施し、毎回研修報告書を提出している。「虐待・身体拘束チェック表」を活用したり、とっさに出してしまうスピーチロックの言葉などは職員同士で注意し合っている。身体拘束委員会を定期的に開催している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修を行い、ご利用者を注意深く観察し、職員同士で虐待が起こらない様努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居の方が後見人を必要とされている方もおり、いい機会のため研修を行っていきます		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容に改定があった場合は、その都度ご家族、関係機関に施設側より十分な説明をさせていただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナのためなかなか来られない方が多く、意見を聞くのが難しいことが多いですが、電話や施設に来られた時に聞かせていただいております	行事時の様子や一人ひとりのスナップ写真を載せたミモザ通信と生活状況のお知らせを毎月送付している。生活状況には身体面・精神面・生活面と連絡事項を記載し、面会が制限されている今特に家族から喜ばれている。	コロナ終息後、夏祭り・運動会・収穫祭やクリスマス会など、家族参加行事を多く予定しているとのことであり、家族からの意見や要望を反映していくことにも活用されることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全体会議とフロア会議を行い、業務改善及びサービスの向上に努めています。	フロア会議で業務について話し合い、服薬管理や夜勤と運搬の業務分担など職員意見を反映させ改善している。年2回の1on1ミーティングも職員が意見や要望を提案する機会としている。資格取得や介護技術研修などの本社研修は勤務扱いとし交通費も支給するなど、人を育てることに力を入れて取り組んでいる。アロー委員会を立ち上げ、職員の役割担当分担を明確にしスキルアップを図るなど遣り甲斐に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	当社就業規程にて、定期的に公平な評価を行っています。資格や本社開催の研修受講などの参加も含まれます。また職員と個人面談を行い、職場環境について意見交換を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社にてスキルアップ研修、施設で30分研修があり、職員の希望または定期的に受講できる環境があります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナのため機会は少ないですが、電話連絡や、施設のミモザ通信などを郵送したり、ミモザ新松戸を知って頂けるよう、また包括の方とは懇意にさせていただいております		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者本人との面談を行うとともに、ご家族と関係者からも希望や要望などお話をさせていただき、関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご本人ご家族、関係者の方から話を聞かせていただき関係作りに努めています。 ご家族が現在抱えている不安を当サービスを利用することで、少しでも取り除けるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設で出来る限りのことは行うようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者本位という事を忘れず介護を行っています。沢山のコミュニケーションをとり、信頼関係を深めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とは密に連絡を取り合い、コミュニケーションを図っています。ご利用者の些細な変化も随時報告しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族には今現在コロナため、なかなか面会にこれませんが、施設に来やすい雰囲気作りに努め来られた時は玄関先ではありませんが、短い時間の面会はさせていただいております	コロナ禍のため、馴染みの方の面会やなじみの場所への外出などの支援は出来ていない。今は、電話と手紙による支援に限られている。特に電話に関しては極力直接話していただくよう、支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者皆さんで出来るレクを考えたり、ラジ体操を行うなど、ご利用者が孤立しないよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了となったご家族でも、困った時はいつでも声を掛けてくださいとお話させていただいています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	なるべくご本人の望みを聞いて、出来るだけ意向を反映できるように努めています。	入居者の表情から、楽しんだり、喜んだりしていることを見つけて、継続して取り組めるよう支援している。そのためにレクリエーションを充実させており、体操、季節の壁飾りの作成、おやつレク、生け花教室などを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人ご家族、関係者の方から話を聞いて情報収集を行い、入居後もご本人の話からも把握できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の一日の生活ペースを把握し、更にその日の変化を見逃さない様、日々観察を行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にあセスメントを実施し、現在の様子から計画作成担当者を中心にスタッフとケアの在り方について検討し、ご家族の承認を得て介護計画としています。	サービス担当者会議を経て、アセスメントとモニタリングを作成し、家族の意見を聞いてプラン原案を作成している。プランは介護職員だけではなく、訪問歯科、リハビリ、医師、看護師とチームで取り組むものもある。課題があれば随時職員で話し合い、申し送りノートで情報を共有している。	今後、毎月送付している生活状況報告書を活用するなど、プラン更新時、家族と短期目標ごとに話し合うことを検討されています。実施されることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を整備し、気づきや情報は申し送りノートで共有し、必要に応じて介護計画書の見直し等も実施しています。また、区分変更なども行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法令に違反しない範囲でご家族やご本人の希望に添えるような柔軟な対応に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新しい地域交流を模索し、暮らしを楽しめる支援を行うよう努めたいと思っておりますが、コロナの状態を見ながら交流をしています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の内科訪問診療と24時間対応の協力病院と連携を取り合い、速やかな受診が行えるよう支援しています。内科の他に精神科、皮膚科、眼科、歯科も行っています。	外部受診は家族が同行し、職員が送迎を手伝っている。処方薬変更や医師の指示は申し送りノートで共有している。2週間ごとに薬剤師が定期薬変更点プリントを更新しており、掲示して職員で確認している。夜間の問い合わせに対し、医師と看護師の訪問がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護にて密に情報交換を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関と連携して常に情報交換を行っています。また、早期に対応できるよう相談に努め、入退院時には介護サマリーなどを情報提供しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約提携時に重度化した場合について、当施設の方針と内容について説明し、同意書を交わしています。併せて治療方針についてもご本人、ご家族からも同意を得ています。また、ターミナルについても同意書を得ている方もいます。	開設時、職員は看取り研修を受けている。入居時に「重度化対応・看取り介護指針」を説明している。すでに看取りを行っており、現在もターミナルケアの方がいる。100歳になった方や医師によるターミナルの診断のある方には、「看取り介護についての説明書」「ターミナルケア(看取り介護)における申込書及び同意書」を説明し署名していただいている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルや施設で研修を行い、迅速な対応が出来るように備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成し、日中や夜間帯に定期的に避難訓練を行っています。	火災の避難訓練を行い、夜勤者が訓練を体験することができている。災害時対応の研修も行った。連絡網は近隣職員が早期に駆けつけることができるよう組んでおり、夜間には10分で3名の職員が駆けつけることができる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者ひとりひとりの人格を尊重し、その方に見合った対応を心掛けています。	「ひとりひとりにあわせたケア」を提供するため、朝食の時間も2時間以内に召し上がっていただけるよう支援している。レクリエーションのカルタでは難聴の方に読み手になってもらい参加していただいている。また、日常的に食後の皿洗いから棚にしまうまでを担う入居者、手すりの消毒を担う入居者もいる。入居者ごとに活躍の場を提供している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活でお好きな洋服やお好きな音楽を選んでいただいたりお、気軽にご本人が希望等を意思表示できるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズム等が乱れないよう留意しながらご利用者の希望する一日が過ごせるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の服装等なるべくご本人が選べるように声掛けをし、悩んでいる時には全体のバランスや季節感などをアドバイスしながら、一緒に選んでいます。定期的に訪問理美容も行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事についてご本人の好き嫌いアレルギー食などを事前に聞き取り、職員全体で把握し、調理の際に反映させています。また、配膳、片付け、調理のできるものを手伝いしていただいています。	飲み物は紅茶、アップルティー、レモンティー、オレンジティー、ココア、玄米茶、ほうじ茶、煎茶、麦茶、アクエリアス、コーヒーメーカーのコーヒーと多く常備されている。入居者は野菜の下処理やカット、盛り付け、皿洗い、皿拭きから棚にしまうまでを手伝っている。御節やクリスマスケーキ、敬老会のお弁当など行事食もある。月に2回、移動パン屋を利用しおやつパンを購入する楽しみもある。おやつレクではたこ焼きパーティー、お好み焼き、巻きずしパーティー、餃子などを皆で作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分量を記録しています。必要に応じて刻み、ミキサー、トロミ等その方に合う方法で食事を摂取していただけるよう努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛けをし、チェックしています。自力では困難な方は職員による口腔ケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入し、排泄パターンの把握と共に、失敗等なく清潔を保てるように支援しています。また、排泄から見える体調の変化にも留意しています。	立位がとれれば日中のトイレでの排泄を支援している。適切なバット使用となるよう、種類を使い分けている。入居時にリハパン使用だった方が布パンツに改善したケースもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排便状況を把握し、水分摂取、食事内容、運動等で便秘解消に努めています。便秘が続く場合は連携医院と相談し、便秘薬を処方していただいています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	楽しんで入浴できるよう入浴剤を入れたり、温度や環境に気を配っています。入浴の時間について午前か午後かを選んでいただくこともあります。	浴槽での手すりは可動式となっており、シャワーチェアのまま浴槽をまたがずに入浴可能な中間浴となっているため、座位がとれれば入浴できる。脱衣所、浴室は床暖房となっている。入浴剤はいつも4種類程あり、ゆず湯、菖蒲湯、バラ風呂などと楽しみも多い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活習慣に合わせ、生活リズムが乱れないよう留意しながら、体調や気分に合わせて自由に居室で休んだりできる様、室内や照明管理に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに最新の情報を載せ、職員全員が閲覧できるようにしています。また内服薬の一包化をしていただき、服薬事故のないよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的に体操や歌謡曲や季節に合ったレク等を提案し、楽しんでいただいています。また、掃除や洗濯物たたみ等を自分で出来る事はしていただき、それを通して自立支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣へは日常的に散歩等で外出できるようにしていきたいですが現在コロナのためできない状態にあります。	雨が降らなければ、ベランダ、玄関外にはほぼ毎日でている。散歩でバラを観ることもできた。コロナが落ち着けば散歩を再開したいと検討している。	コロナ禍終息後の日常的な外出支援に大いに期待が持てる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は紛失防止の為、基本的に事務所金庫にてお預かりしています。嗜好品やお菓子の購入、医療費の支払い等に使用しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族やご友人から電話や手紙が来ることもあります。基本的に通信は自由に行っております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や気候に合った温度管理、雰囲気作りをし、過ごしやすい生活空間を提供できるよう、常に工夫しています。ご家族、お客様を迎える玄関にも配慮しています。	玄関には季節を感じる飾りがされている。1階は緑系、2階は茶系と落ち着いた色彩となっている。カーペットが敷かれ、質感と衛生面ともに機能性が高く、床暖房となっている。リビングの電気は暖色系の光となっており、寒さ対策としてひざ掛けを用意している。模造紙での作品が飾られ、季節感を演出している。花壇のあるウッドデッキと玄関では日光浴を楽しんでいる。相談室があり落ち着いて話すことができる。相談室の奥には理美容のシャンプー台があり訪問美容・髪染めなどに活用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアではソファでくつろげる空間を作り、ベランダでの日光浴もできる様に椅子を準備しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分のお部屋として自由に家具や調度品を持ち込み、居心地良く安心して暮らせるよう配慮しております。各居室には職員を呼ぶコールも設置しています。	居室には介護ベッド、エアコン、防災カーテン、チェスト、収納、照明、スタッフコール、カーペットが完備されている。持参された物は、鏡台、テレビ、椅子、御位牌などで写真や作品を飾る部屋がある。転倒予防のためにセンサーマットを使用する部屋もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで車椅子の方でも自由に動けるようになっています。浴室は機械浴を設置、居室前に表札を付ける等分かりやすい表示もしています。		

### 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	コロナ禍で外出ができないため施設内での過ごし方の工夫		季節感のある飾りつけ 楽しみのある食事(たこ焼き・おこのみやき・手巻き寿司・餃子)など参加してできるようなもの 今はクリスマスの飾りを作っています	1ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。